

## 分子の適材適所

新型コロナ禍に突入して一年、現在は感染拡大防止に細心の注意を払いながら研究を進めています。学生時代から慣れ親しんだ「長時間研究室に入り浸る」生活スタイルから、研究室では効率的に実験を進め、解析や論文執筆は自宅で、ディスカッションは研究室内外関わらずオンラインで、という「with コロナ」スタイルをどうにか進めています。（うまくいかないという意見もよく耳にしますので、あくまで私の感想です。）一緒に研究に取り組む大学院生とともに、「誰がどこで、どの順番で、何をするか」のマネジメントが、研究を進める上でこれまで以上に重要になったと感じています。

私は大学院生時代から一貫して、多孔性材料や金属錯体を利用した触媒設計を進めてきました。その手本として、光合成に代表される天然の反応系があります。・・・